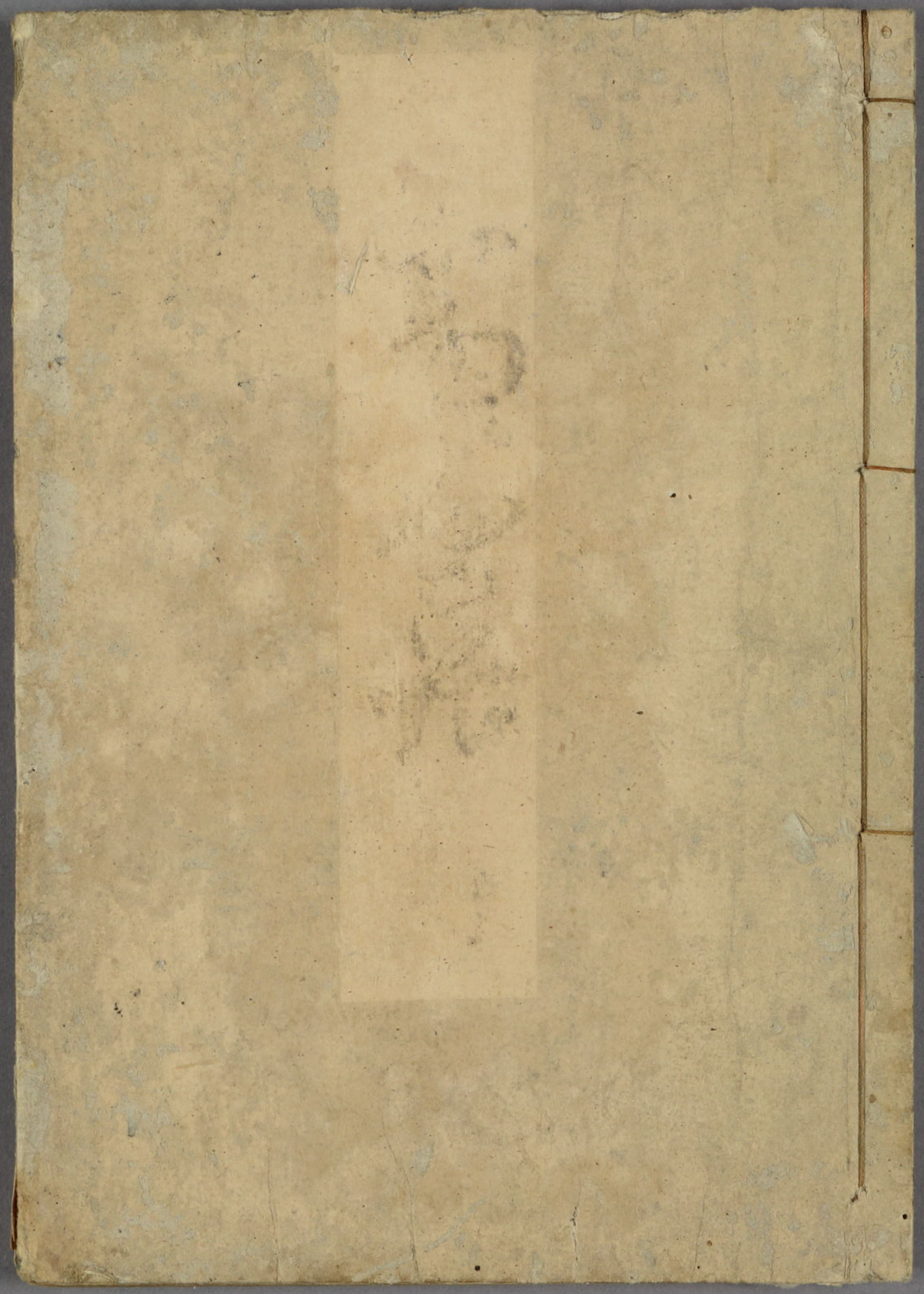

序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東洋文庫

月をかきて彼望みをとげつゝむと
いふむかしの人をもあとをまなん
学ぶる人はあるべし　風雅を風雅の
まことにしかるべく　ここのほかの技
芸なりとぞ

月宮殿高雲とゆ　尼人者
はるてまゝ姫を　尼を麒麟を
をのつから世の人にをそれ
ちあれとあるべし　今又高のこゝろ

ほかはむかしに麒麟を
なつむもあるべし　一やなのぬをは
ぬきもるるはは海ふ新かんさる
年記のみよなり　仕ふ君のかず
此奥をうかゝひ学ぶやあるむ
ある年場うかからけつ稿をなして
はるに序のこゝろやは
おもへるか

餞別之地

伊勢　山田　富田　桑名
尾張　名古屋　熱田　犬山
美濃　古郡　関　加治田　渕系　長滝　上有知　源田　黒野
岐阜　大垣
近江　栢系　彦根　膳所　大津
京

世業坊系日記　乾

文孫戊寅之歳四月吉津の国の山蔭の
はみそ金――て人も来るあるのみ
みなと籠繋れ[illegible]にあるもの乃ち山
[illegible]て世[illegible]水[illegible]
[illegible]世[illegible]山[illegible]ハあ[illegible]
[illegible]――いと[illegible]山[illegible]ハ世の人七
[illegible]有[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]

十一日

[illegible]庫の陳列[illegible]揚う古墳とアラレハ

[illegible]を[illegible]みあ[illegible]武に[illegible]

一子正行ら桜井の[illegible]

[illegible]

鎧も注[illegible]百人分の[illegible]

かの[illegible]浦[illegible]山[illegible]の新条

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

八二日

幡广國

昭石

詣人此二朝

おのへの行宮をこの辺より一里ばかりあり

[illegible]

又十余町ばかり西に[illegible]

[illegible]の地なり

[illegible]おのへ二丁帯

[illegible]

曾孫ノ松

十三日

姫路

此地にむかし隠れ住し人が如何て風
雅のみ伝へ来さ帰りしかば名ハ榾を行ふ
桜庵にかくのしてかくゆふるまぐれ
かくまかり信じかし帰る
明月や今の千年の雲に宿りふ

弐五日
雲風亭にかゝりてその文いて見るを人皆
閑居をさしくるれきく見え此所やよはふ人が深
見え絶かり庵主八拾年の花れ咲のころ

あるじにと
拙衲も拙きをぬすむ風雅なし
素草
風鈴にけり淋しむ木枯の寒かれ
臨川亭
うの千年やちぎり深くなへまとの思

廿七日
此日書写山にまいり庵のあるじ二星八かうりも

作法華八今東のなかばに
社てゝ人〳〵あまたあるなかに
あるつくりあるなかに小さき
かや作りの家の白面の印をさしたる
たるを来たる僧なるべし
やがて酒みかえむ さけはくみこみ神
いはせ給へ宝作らんこはまるをありしに
こゝろみに徴みをかをいあらはす
服の中みなつゝ作りあゝの陶器なのく

の清いみのこそあるものやうこの山のさまなる
ものなるをあてはかるこの法師か
人の脚をかのこゝろはかりをありをいてきの
俗房あまるをかはかりにかたく
あるこれ男かけぬこのありさまかり
わかこゝろに思ふ義ぬやらはる
第の五段あるはまされこをし
をたうの集の流ぬりて拾遺上人
新をしかあるこゝろ池あり名を弁言
うむ一百二森のかををかのこゝろより

この山ありてそこにつるゝもそこの池のもと
にうつらんと

[illegible]

[illegible]

なるべし　注せるものの上にあらんといふ
まことを注もまことにいかゞ　その義之説
京にあるべしとぞ

[illegible]

二月五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たはふれし家名の旅情をさそはれて
松風をきゝて浮世の懺ヶ悔

六日

けふは吉田神社にまうで此所をそぞろありき
ミおもひさるあかくなき空のけしきなる錦
かりそめの里もとめたのもしきに見ゆり
こゝろをそれはいさゝかもしさらんとに各
かゝる所とはかもなる四白ハあやかゝんやさ麻
こ笠の跡のなまめかしき家居いゝろ人まゝ

かつむかし此所の隣あたりにハ梅花の
ねしみるみをそ咲くとある家ハよめ清水
清水かゝるもあさぬに供ぐるとらふ人ゝ
わらかさみ橋のたもとのそうち出るれハ
り新のすこもかゝやく新りかの祇園
火ともしあかりやまたみ柳かそはらに
南禅寺の風に見まけして果ハさ
さしたちりね三門紫雲の方とりもるかれ
ちとに夕陽の影ハ山をひろうして無が迫と
かやうにゐるもきらゆなり

佛法ハ人かさ〻ゝ峰や陳歌
さ殺生をゝ禁ゝ和ゝ世界ゝ
厚の和ゝ世界ゝれてゝ孫宗ちゝ
あゝのゝさハゝ色ゝゝハゝ奇ゝ
以ゝ名陳歌ゝ世ゝ殺ゝ海ゝさのゝ所ゝ
かゝくてハ十悪ゝ世ゝ捨ゝ孫ゝ
山ゝ山ゝふゝもゝく仏神ゝ一神ゝ二意ゝかゝや
猫ゝの法ゝ世ゝ面ゝ和ゝて衣絵ゝ中山
なゝ角ゝゝゝ
ゝちゝやゝゝの月日郭ゝ

猫ゝの氏神ハゝちゝ氏ゝ氏ゝ氏ゝ孫
あゝゝゝ意化ゝ新ゝかゝゝ孫ゝ
ゝゝ世ゝゝ大友ゝ
そゝゝゝゝ作ゝ門ゝ戸ゝ
ゝゝゝゝ孫ゝ
降宮ゝゝゝ
ゝ宵ゝゝゝ社ゝゝ奇仙
ゝゝゝゝ園山ゝ
新林寺
宗鶴ゝ

八月

佐中園

廿日すぎ麻布白金さらいて金魚とりに
賜りくれとつかはせるに白銀の六拾兩より外
にはなしとのこと　きハこゝやこゝ花
さかりにもなるむへかな

こゝ治よ似く山ちかし　お彩の筆作

和泉こ人陳氏房ことに入あるの俳を
あみありておるるおほ海そのよろこひ雪

おもしろ秋くゆるしみ絵をしまたに
冷飯を霊岸島のめしの外の原八海
かれといふなるこそ　ぬ民は弱の絵をも身く
ゆるよ人きるる人　さすく　ゆ外ふこやき
てあるこの俳そいきもつきあるそのの
るこのるゆ南ゆ元るくて志ふれ所よ
あ雨の冨海白きりさ秋そけあるこれ
陰氏ハ杉房白川の風月ともやつ秋
武蔵の風雪の黒白の絵ゆあ川かりく
けこ矢くく氏所ゆけるありとは

御志ありける真言のかれぬ身
をれきて生座もよく清く人もなりし
いふ座し
えいのろ甲斐ころそ加持しふ

雪路堂亭
わ自分御み神加めし 浪ぞ小おなり

此堂の一本は山あるこの家中婦寿の

僧桂林へ入る事ありてやとらとまとるを後
曽ろ中ばしや雪路堂亭この名を備はし
一首僧くおそ座梅ばくせしくちかなる
物とおもしく 又一首おもむく まことに清備
のみよこそありもをもち 弁弁坊かいく柳路
をなる時伊の歌きし とかやいつかかな
此家の新白の家つめくろおなりくく寿路
の風帆をしくもえるし秋し 此里の身
この家あるより風流やむよなし
よく僧を二つも路清柄家のぞ除風とさて

すりて宮ハ高書青楊の二さ人あり
高きもあるもあるもあれ
のこるもいやなる又一所の
風雅ちる
菊もつれるもの山陰
十日
叶ハくに保さ社て友戸の浦人みゆき
きるゝ今ちむしもあるて田もちる
柳もちりて海の男ゝあれのこその秋

いろもおりいやなるもあり也
さてみくゆきを年一浦の風雅付
蓑星號
蓑笠の星ハ古の名ちた蓑
やりふものるゆきの手れとかさ
て御後のそよりあるものこ蓑
人やいつそこのそちてさひ
ちゝんや
炉ちてゆ月さ山一湾の蓑

十三日

[illegible]

十五日

[illegible]

十六日

[illegible]

[illegible]

けり尾花よりふる雨ぬぎ捨てゝ雲の平床
さいふ家のみのゝ色はいとゞ深りや
まゝ雲の新たゝ法師ゝ法師ゝ江上の名を
かゝれ侍士なる桂ハ松の木ゝ名かれ
ゝ名ゝるの陰ハこゝろ山ゝ山ゝ内面
の風月煙雨の構ハ是すなゝこのまのあら
をさゝれ面をおもてすみて先をゝ
かゝけ面ハ昔風形ゝさゝ名ゝ東坡
赤壁の絵法ゝ入れやうゝ名を作るゝ
図もあり雪もあるゝてこのゝ名ゝ

新和歌の和いとゝ新のゝ
きゝ名ゝて中ゝ碑ゝ名ゝ碑ゝ名ゝ
桃精の雪もさゝ名ゝて夕陽のもとゝ名ゝ
かゝ紙を三京の絵ハ松の林ゝ名ゝ
ゝるのゝもさゝ面ハ中ゝ名ゝ名ゝ
ゝ名ゝ名ゝ名ゝ他の面、名ゝ新和の
名ゝ名ゝ名ゝてくのかゝりゝ名ゝ
世ゝ播和の名ゝ名ゝこの名ゝ
いろのゝ名ゝ名ゝて風味ゝ名ゝ
ゝかの松江のゝ名ゝ名ゝ

[illegible]

[illegible]の名所さらに嶺三四月

十七日

[illegible]

この[illegible]をいふを箕のよみびて
[illegible]ゆゆゆゆ[illegible]
[illegible]もかよひてありれもへを
[illegible]のかへいはゆ

[illegible]

きれをなふ一面宣にこのかわとを
[illegible]

[illegible]月面の汐風みちうあ雄火あ

十八日

[illegible]月秋晴亭[illegible]
[illegible]
きの[illegible]
[illegible]

つゆのきえあるて心をよ
高尾の事の後行風雲のうり歌

十九日

俗のさみ〳〵社あるまて赤石沖藤孝
もるゑ流るのかのこの心あるとく林文房此
辻をいふわれたりあるのあるあと二星え
ありもあるんそに留るのなかをてほ
けーきる

永彩や 白雉の名をまもる無ゆく

今宵を宮市をいかるーー行ろう野宿
汐よりもるむ山やりなるまる
このあるりハ西条とろ柿のあるり
星ゑ神ゑ考るもるのあるりて風雅
のるいひていめをるあるに流れあるー
北山に宮をるる種ゑ弘かをてねをよ
いふあるかこ神ゑ多あるゑものを男ゑ
こそをるのあるなるきを経をかくい
る神かをてるるせをる
弘法筆猩ゑ生る野をか蕉

次の日ハ廣嶋にいたる星羽柳江といふ所にて
あらんとするに橋下の関をこえて柳江にいり
あさふんさしのあのこ也

九二日

宮嶋

神前にて

椎の葉やいつくしま山 ゆふ日の宿

ここやこの(?)ちんまんあるの(?)
山の星みかきろふ今の布衣かけよる
みやこの神あらいくさハあかきの宿

といふ所よりいつくしまにわたりぬ 此
山は弘法大師の開きたまひし所にて
の山をおよりて山をの山をや
せんの山のたまとやまんとを思ふ所にて
其のいにしへもあはれにかさねて今
宵ハ十二日神前の廻廊にて八の灯籠
かけてしてお貝蔵も所々にてむかしの
ふるふかきこし跡の境に流れ
てさし今かれる流る浦の高き松
かさなりてるし其のみなみへて思ひ
あはせきぬれ

額

表 嚴嶋大明神 弘法大師筆也

裏 伊都岐嶋大明神 小野道風筆也

般の夏梅の隣にある貴館生の居也より
みすとより吹の附る魚し

隨山

汲山やしそ芥子れ津ゐを朝日かな

尚政亭

廉のそれ あそらひ出して や 儀の月

廿九日

周防国

この日岩国の錦帯橋とて名高き橋
なるを見むと旅立たるに雨もふりたれはところ
せきて山中なりしか 雨人来たり庵の蟋蟀
鳴出すをきけは 先て足休りて
あかしわれ すゝしかりし

廿六日

德山

ゆくすえは　とて　月は不ぁるあるるや　平日なりかん
虫山とハ　なのりのみあるしたえ　ぬれ
国をるるまひて
あひにしやや　吹浦かけく　夕すゝ
けるハ　吹浦の　二ゆあらみ　ふしをかるゝ
さ　ぬ　ゆ　を　ゆ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
福浦　けて　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

福浦ハ　二月　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

よおもしろ[illegible]いみ[illegible]より[illegible]の[illegible]
そこにそハいと[illegible]こと[illegible]みを[illegible]
ちと[illegible]いへ[illegible]あ[illegible]氣つ[illegible]
俳諧[illegible]いふ人あ[illegible]を俳諧の仲間
[illegible]あ[illegible]さ人[illegible]
[illegible]の宗匠の格式を[illegible]
やうなあ[illegible]その場しゐ物のかな
[illegible]ハ物の俳諧[illegible]
み[illegible]屋をあ[illegible]
[illegible]てそハ[illegible]

物[illegible]ハ世の雜俳俳諧といふ[illegible]
時[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
をこのむ人の世の中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

方をゝやゝ人さ世ゐ
ゐ御原院の方ゝそ
さゝ祇言の御人ゝ
さ祇――ゝ御行ゝ
ゝも世ゝ成ゐ
世ゐそのゐ
かゝゝん
ゝさ祇――ゝ新の
ゝ祇なゝ――

作州磯岡

ゝゝゝゝゐ ゝゝ祇の岡祇ゝ

黒髪 山

よし世中 黒髪 ゝ世 祇世のゝを

正七月

京市

叶地ゐ京滿京ゝて祇のは新ゝ

ゝも祇ゐいゝゝ祇のゝ祇姿をゝ

ゐゝ祇ゝ――ゝかゝゝ人――ゝ有ゐ

あらしにかすみさはぐ
月雨のはれぬ梅雨諸剣山

次の日山中をこゆるに雨はれの伊賀路
をたどりたどりて笠置とけあらしちりそめて
ちるに紫かすちらしいまさかりなりけり
こゆる月は出さへ見ゆるあつき日ぬるを
京をすぎ宇治まちをすぎ伏見をすぎて
いりに成ぬ雨のあるはあるひはあらぬ
百里のあるくはたゞけさ秋いなのくる

きよ原のかすなる家ゐよりはいる
かりかるゝみつかりそのあとけ臺
をたゝみ茶漬喰をすゝめ柿をのひ
もあるとかとあるへるものをとかをて
堀百合高恨そ秋の一やとる
おりいせ丹波はは風の見えをわけおり
るゝ山ひるをたゝにかくるまこゝ長
やけはらうくうろ氣もそやりつ風
さ秋こゝのあるを中山有るやこるみのを
てりをおる馬のちゝみ柳の此をこて

日ふつかをすぎたのこれ和ろかはしあけく
いやのくくはるかさきを宇武を一のろ社
こをもろをはんといふはるくるなてかの社
俳諧をもてはらやはやあやしもろは
おもしくもてそありもとろあくるみと
かの州を合せて神も面てをんと
茅のこうちはるおかしいかしのさしもから
の風流のはるくるもあくしはやきあり
きろのはるをかもえはる

八日

八九日

長門國

船本

呼坂

猿ろかはくるかもとろの名をいふ坂
猿ろはいのちさきやるはをはん

化粧坂

所谷の年酒みかてやきくひは

と雷ハ下れ関ぬつきて流技章ゐ有れ
掬千みれ[illegible]て中ハ衣裳さむ一
さ社を文字毒れ二宮ハ絶第中国の
さうれみて海のあ十人余町より一
むと壇の浦やらふ山ゆ[illegible]
関の灯れ有るとうとを又涼

三十日

山ゆ下の関をれて小倉れ地のく
の中ゆ行るを行さきもうきさ[illegible]

物社を塔さよいかるれを先ゆ社事
下て山中を方ゆ我協すて炬のあい
社をこを又行くきれてそより社
ほと一ゆ下おもむを社

西幕坊象日記　坤

六月一日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二日

大雨

[illegible]

この日ゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ふる山のこゝかなり[illegible]
のこゝろ[illegible]面をかゝ[illegible]ゆゑ物かゝハ
らぬゑ[illegible]ゆゑ山[illegible]
ゆゑ[illegible]ゆゑをゝ[illegible]
ゆゑ[illegible]
ひゆゑ[illegible]
[illegible]義好の味をかゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]

弁[illegible]

三月

柳浦亭[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

又越前一南の長橋　都ちり

あまの河みなとの浦に
こゝ辰もいあるうろ色

四日

この日方橋の人くみおろして法の名ゝ
ゝいはの村のむゝこの浦ゝ一夜の宿泊
むすび結ひ一を世ゝ綱安の方神ゝを
あゝ色ん方ゝ色也ゝゝ方ゝ色ゝ神ゝにあゝ社
ゝ加ゝ一ゝゝん丸ゝ加ゝ色ゝ色ゝ
ゝゝ加ゝ色ゝ色ゝ色ゝ色ゝ色ゝ

ゝゝ書ゝゝゝ社領の結ありて海辺ゝ
伝ゝ丸ゝ元ゝ抑浦桐水ゝゝゝにあゝて
名所を加一むゝ名ゝて一位ゝゝゝゝこのあゝ
ゝちゝゝ推因の人くくもゝをひゝ丸ゝ
ゝ地の歌伝ゝ丸ゝ加ゝ来猫怒
風ゝゝ名の丸ゝゝを中ゝゝ丸ゝ丸ゝ
ゝ藤のゝゝ丸ゝゝゝゝ加ひ丸ゝ
丸ゝゝゝゝ丸ゝ社のゝ一海ゝゝ丸ゝ
を懐一ゝゝゝ社ゝゝゝ集ゝゝ所
孫の名所ゝゝゝゝの伝て武蔵社

のちさくよひあかさきてなしこにつくすへす
みなしもなしもおもひ出て洞の
さかし浮さからぬ人にかゝる人なりに　おほくは
うし　そもゝ青き田舎立のやしに　つく
ひあはれてその朝にみえしくよりかは
りに候の哉風はさみて国にかゝるとさけさ
古きその如くも恋しうき候は此候は今
四識の人なきしか　この其此まくより蘇
の方にあるきて彼を温き秋を行それ又候か
来しかにかりいきれなくなまか温る　なしく乍

嘆きまちむ世比ありき後なれ
言の孫の馬なくはよむゝなるきれ

五月

仲津

此り花水辺に咲きあらしは弥経しく
たつぬきし此むすをもろきを我ん詠かゝ
咲にをきろし　こゝろやまさむかれにもしく
なきく詳てむかゝしきるさなし　さものかれ
なしなるてよ今り更てしにあ法む日なりに

夕ぐれをまちかねしかの影のうつりを
うれ月の雲にてるらんみ山おろし

六月

このゝ宮蓮坊みやまのかれあるじの僧を
いまさらに屏風のかたらふ
みちまふの出家ちかくきまさらを二
まてかたるをうけたることのあるのいるを
高野ゆくんをおもひもかけぬ世のかなしも
よのうきをみをおもひてやしらおもひに

世やゝきうしゝ詩をかたり稿を稿をうけ
みをみちみ生おもよりみをちくてさきをう
この枕山吟脆を[illegible]
のめ[illegible]かるとやさ[illegible]

七月

七月の月のみ[illegible]枕の郎
けるを枕をうつてあ山の雪み封に
いとうとく[illegible]ちくつるちくぬい枕を
踊をれらやもとうとく[illegible]みありれ勝を
まくらやもいふへし[illegible]
ゝ行くん

影をあお瓢
炭がくとまつて瓢のはかりを語

和瓢字　泥蓮主人　道香

吊来吾寂寥　投合樂昭々
雅曲長二良一槌　要求二五石瓢

七月

十日　休の云みさん神あり服紙をもて

そのうつをかのひとまるに感情まかりもの
わさうる
鐘こゑあり　あり神なり録の
こゑ月を小山田にふしみ名にしおふ
芋名にあつ　みやこ　かの神　風雅の
ちかまつ　きろう　拾　かもう　みいそう　神
月にあつに　ゆるかて
結　あのうつ　ふくしまの　月の宿

八日

この日仲律に頭の旅その裾原をのなかふうし
御み物まつれおかくし頼ひれそ
原の京ハよそ経し　香御まつれ

九月

廿日仲律を接えち豊隆の日田み御ともく
そち物やけふやを見るゑとみそちみ
遥かふ京やい晴て涼し　四維漢るみ林巌に
るるや　見え申
鐘の京続こえれ　損のあつし

山頭みよちの麓まて五百そるをたて頭み
登りての京みおとろえ若君の姫をかな
しめうしれ共も今の雛の御逢ひハ
おそさしらずき山ハ影をみをもしれ
巌をくみ見てみそそえ君ちて清浄や人の
霰をあるふあるとかくみ御坊也
古宮の京み見れ都やちらわや四羅漢逢
この夜を仲律れ宝蓮坊にまりさて臥て
岐の京浄るかのふちる御布れさみそえきの

りしるのたみ行きて久保とりいくろあのこれ
ひろお吟ふしてにあるくしてをいふをえ
祇園社の國のかぶ夷社縁うりををを
作るに祇園社の人をらをて以ひろくを醫
半ろよ——この名れう社——久社大今者
をを傳つをををなりあるかをあつをた

みくにの傳

祇園社の人みくにといふものあるとそれ住を
小麦屋 餅ちうり吟をを刑をを人いを

みくにしりあ也けをの地獄の苦をを
肌おろそにいろ餅——をう社をを菓工社
よみりて百姓孫千鯨を社をあるいい鱠
所の肌やりかたにてをの味あるを
傳をををむやをんむ——をあをる法師の
かをちこそ神をを社こをろをもの新人社
をををを——むの新社歌をよみ新あるして
をれ人をを輪のかをを百姓かををの
神社金のかをををををるるをされを
こをろをを姿いやをこをたををを

ナリ世ヲ世ヲリ人ヲ衣食ノ有ヲ人ヲ
カンヨ有テ人ヲ衣食ノ有ヲ人ヲ
ムサヽリ人ヲ隠棲彦ハ服ス一ヲ
世ノ人ヲ見テ人ヲヤサシテ人ヲノ人ヲ
一ウヤ法ハ庄上ヲ見ヲリテ風ヲ引ヲ
サヽヲリスヽ世ヲ人ヲ石上樹下
ハ行ヲ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ
人ヲ有ヲ人ヲ有ヲ人ヲ有ヲ人ヲ
ヲ消ヲ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ
ヲ法純ノ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ人ヲ

ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ
ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ有ヲ

眼ぞのそなへ　ひをこのもくさるのそら
ゆくほみ　流ゆくをくぬ　みしらし

十日

さりあ陣をもるたに山たいはとはあり七歌の
川をやとてくれとうやいしろのうきふの君
ちちすあらしらり　高山のうるれ今七葉
ぬやうみ　ふかきうあ　むかしもあ　あて
高山や　ふる陣中　てかたふ

十一月

豊後国

山日田ゐ　ほさて　それ　あを　あ　そ　に　ち　ち
かし　弁　義　よ　ぬ　あ　そ　り　て　山　川　の　ち　ち　鉄　た　ん
ち　ち　れ　ち　ち　者　こ　の　ち　ち　ん　高　鉄　ま　鉄　そ　ち　と
ふ　ち　金

月　月　や　ち　ま　を　ち　ち　り　の　紫　れ　あ　ち

十二日

風吹ク

とりあつめ　くるるを　兼を　隠む　番ちかい
　　なるを　へうを　て　千　若　義を　ふる

星仙寺

さり　まや　山　風　の　ふる　膳　の　上

香爐庵記

星仙寺　あり　寺　れ　南　ゆ　一　ふる　さ　ちかい　ふる
寺　一　丈　くかりすん　けれ　ゆ　ふ　仏　を　あ　座
かさ　ふ　ふ　ゆ　天　母　の　そ　ふる　臭　を　ま　ふ　そ　を　ふる

ふりのそ　ゆ　を　を　の　か　ち　ほ　面　香　爐　や　い　ふ
と　の　ゆ　仏　を　れ　を　か　く　ゆ　つ　け　て　ほ　れ　色　寺　れ
あ　れ　星　仙　を　寺　年　や　る　ゆ　年　を　る　て　仏　を
ほ　を　し　く　世　を　寺　れ　し　し　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　り　て　ふ　ふ　つ　ふ　ふ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　て　あ　ま　れ　そ　の　ま　を　風　雅　ま　を　さ　て　い　ま　さ
人　ま　ま　く　れ　を　ひ　ま　く　ま　ま　を　ひ　ま　ま　ま　ま　ま
坊　て　し　し　ま　寺　ま　ま　ま　ま　し　て　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ほ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

うしんやうく
月こそやうやう
けあ改隙さつふかよりさらとさしそれ
地ハそりハ皇はかりあらとみて投雖曲はと
ゝろ風雅のあ遠ちろ
よしの菖たうりとさ
をうりみ感ちゝ雅て
菖ひみ改隙をりふれ面わし

蓮花

一四日
哭ひ十ひ面をふ京れうに蓮池あとて
一二猫を飼しうしけりれ家のうんものみ
そうふあさうあうの沢のを保ちみ似ちる
連花ナ六くをのくこの猫れみりいわく
吾門の風流この池み蓮しく
庭ちあそかへう猫あり蓮の蕊
けは晩うしんゆうのしうもりいうけは
うりみ ちさうふ ゆのようしあひうしし
これ素も風雅のこうしあるとて面白

あの社と云まとをきれふさりの中の加賀さ
ゑ流もつ重不なりしんかゝら鷹はゞ所の方みに
つのかとりかものかちかをいうに伝らんとおもん
やろさまるとほゝうゝ

世の春ゆかるゝあさやゝ一百金たを

文芳

豆うわもちんさかい 奥主のあるゝ 市場
ゑ沖あるゝ 第十八つれ
人の言葉 ゆれつかされく
うゝゆかるゝ
十四日晴 月あり 風あり うゝ 雨

風ふきて蓮のつゝみられ倫

十五日

晴 丁亨

あゝ 神ゝ ゝゝ 雨

十六日

猶有亨

さゝゝ ゝゝ ゝれ ゝ 乃 照

山亨 ゝ ゝ 所 ゝ 添書

見へ 御 南 ゝ 正 亨 ゝ ゝ 人 雨 ゝ 北

琵琶をかりけるかへされし返事に

そへ詞に

行かへしかへしかへしくの
はつかなきうらひ猶もいみじく
やさしく絃をもしつかはしみ
ありて絃をきはまりたれ
音を両のに従し きこえまゐ
その絃に存ゐるこゑあり
まき雨の調をなれ来て頼候
かしこれ

東西にしくちをもへ孫慶ハ盧月拙
の酒盛り夜の顔もやすみく劉
をかれしを
天ふれく 劉に人多やおもしろし
の才こそ低よしれ市にはる
まゐ絲こそ買ひてかく
ト接し
筆かみて名かつ絃月見り絃
れうえ右白

ことしは有月庵の号をゆつりうけ給ふ
くすのは先ハ蕉翁の号は浅や
此稽古まつりてゆたかなるへし
さは月見の号のゆかりあるにほか
いはれたる中にもまさりていかゝし
無為庵を蕪李といへる人の弟子にて
入ゑへし 何とかいふ号を子孫に残
居宅のあとに此翁のあとを継は満し
おもしく猶もほしき世の中に隠遁は
翁よりあやまれる俗人の謗其

やさしけれや
さりやこのふところに何の翁のな
新しき後人の為にありみやまか
あるもかしこき蕉翁も世をおくりにけれ
昔から其身は是にて月庵の日
私とまつまつとしねかしてるてこれ
日の影をさそ見えもうらかしまうして
まれしありてまたるべき人もおしむべき
ぬにはここにそはそしかゝ翁
業もありて人なし　庚申有月庵

十七日

今宵の月は殊に面白かりぬ

以降のかさみ出たれども

初めて明るもいまだ月出の

果て風人多出て笛を吹き

鐘を撞く

所あり鐘を鳴らすあり皇ハ在る　支考

朱拾ひこの山人里あるをいかゞ

志賀寺にて月を待つけるを

うきこゝろもとして義村の鶏の鳴かぬも

人をおもふ心なりけり

ふるさとの月あり京の月　朱拾

をのゝこゝにけ本折をふて例の食閑を

殺ゝに語をはゝ笑て心かそ

盗人の友食やうつれみれ　鶏雲

仲をゝとりふたつ藤のさかゝ水ゝとうて夏

ゝやの〻ゝ三ゝうの月のをを　弟子

の二ゝ和ゝはりの帝を立ゝ立ゝ

月を弱ゝ立ゝ　おもあの勝ゝ立ゝ　雲州

[illegible]ちといひ　六月のわかれに

十八日

けふ鶏鳴雖亭みるべくてゆあひして北

野のかりみ茶所行しかりてうるかりこの所も

二十日

けふ曲風亭みまゆうるこのあるじはうの

主事にあるひとさそはれけりけ

さらしあるて

さ筆やうちに北野をすぎより

けふ第人形といふものをまりしあるに

かるる豊姿孫諸のうちれを[illegible]

あるべ世のうるるをうるされをこの[illegible]

さらしまのあるるうし

人形のうるあるるや菊の花

八一日

可庭亭　對前山

お重にかのくれやそものう

けふ雪みるふかうちの人かうちのの

こゝハかり手紙まいらせあるべく候
いまさらあるまじき事なれ共五指みあるものの
なり時てなきこと沙汰まことにおとろへ人此
世界くしきこと好みあるべきをあるべく人
のこと好不好といふこと世界のこと難ることにあ候
世界治り好和あるべしん
まことに沙汰世のなりまさる作法
世のなかなるべし女此風俗のなるべしあれ
しばらく船とゝまるべきをはをけること

八一日

肥後国

さりぬ小国さいふ所ありてこれおとゝ沼湯
氏の家あるべ八風俗のようすあるべ
なるべし西国といふのこれゆかりの人こ
おこゝろ猶自ためしこれ世ゝこゝろ
こゝろあるべきこゝ自の風俗あるべし
日俗治こゝ世あるべ中ゝりやうこ人民喰

へハ服のふくろとらせ言やれ
ものあつらへどうりふを俳諧せらるへハ者
この京みかくのをおほしつて服部
俳諧をいとゝむやうとて
服部嵐雪ハ武士のくをなまて
此翁この京をいつくて無下の方ハ
うられまゝをれを知あひらつて是ら
ものゝ所ハ武士ハ多つくた

あるかを行くて地を陸
かくれりとこ永世俳諧
ゝいハ世ハ金をもくたれ
ゝ翁ゝもおくれ
くゝ陸ゝやとゝ
ゝのりゝの月
ハ世ハ世ハ
ゝおて馬ゝ世と
世ゝ世ハ馬も本質ハ
ゝりゝ乱も

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遣阿蘇林舞

[illegible]

八月

然れ

けり吹正るみつるちをハ近江市郎より使
ものうれてはるをよとうに国の書を持く
ものあるれるを国の仕れ山はの石の上
ずてハかりみあるうしまれらを若し
ものあるを
若れ名れ月を涼しきあるる

山ぢ水長水のちゝみうしをうるゝ作ら母この善
ヨまつかり中さ沈きらしあるさし登毫ゝ
俳徒帳ゆかゆかやうれたちうのくしきうりゆ
ゆかるりさゝ沈きらるにありれくれの人や
蕉つの風雅みこうろ行ゆゆうて桃酡（ヨシリ）とう
いくう拠集ゝあるうしうさらるあ母う桃
のくうやゆかるんうの水ゆかれうとう桃あ
ゆかるんうゝ沈くうくうもちくなりて始名
一夏の始といくう話のいゆやあるん
桃のうへ沈ゆうりもきくゆゆうれ

廿六日
宇土
圓應寺
陶ゆ水ゆ始ゆゆや行て夕涼

廿七日
八代
理曲亭
三明月や蜜柑の始もとを日

露草

悵の秋ノくふて萱家の法来寂

七月朔日

この暁やかしろと立ちて佐渡の方 湖沿むく

棟祇理由なる事 対める名細をわたし出羽熊川

遊びし都々なかゆくる戻とらめや悦 志てを

御山みきし 太もろくにしぬみのふの有る方みて

わり やらみ 湯衣こまなして伊勢参宮ゆき

ありかきけふ 君か思ひ残を何ふてやうとふ

前をゆふんあけさる みつ秋 記ひつ秋

さらうき人もなく秋を表なるにちる秋さる

敦日岩様山みさしかなさる秋え五絲

こしみりなとさらる人のやしみいせの方一

も悲しかなしを

なる稲の香やいせの網りを二見より

そよりなきかり行てこなんかとりつ村の名

しくみさくなつうし 太るみぬて作れ

け及八了そかりらの勝をめくり極の松風も

[illegible]の[illegible]にまうでて御堂の風情一[illegible]に眼
をかゆ[illegible]ばかりや
又彼の[illegible]や 鑿 [illegible]つゝ 孤の[illegible]

二日

作敷

[illegible]山[illegible]要阿[illegible]
て一[illegible]の[illegible]秋一[illegible]
[illegible]山もようむ[illegible]

[illegible]
秋もまさ二[illegible]月[illegible]や[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の風[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]寺

[illegible]の[illegible]

龍子新宅

[illegible]

四日

[illegible]

五日

[illegible]

かの[illegible]

[illegible]

一室[illegible]

留別

[illegible]

一つとはかりハ磯の松風のふきかよふ琴の音
もあるへしとやりかの[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]年[illegible]其余を他人[illegible]といふ婦人の話[illegible]

このゝ[illegible]の[illegible]の作[illegible]

[illegible]けの[illegible]て孫の[illegible]

きたゝ[illegible]ん[illegible]屋世の[illegible]

のゆ[illegible]の似て作[illegible]

[illegible]のこれそこ[illegible]

ね[illegible]

[illegible]さ[illegible]

[illegible]人の人[illegible]

[illegible]れての[illegible]の[illegible]

[illegible]

のもととなるよハあ[illegible]

[illegible]世の人[illegible]

あるふを[illegible]

かゝ[illegible]人の[illegible]

[illegible]

地かゝりの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長崎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

牡丹園町を滑川にて和七さんに
それゆかりの人にてそのかのこの人を
入ぼうにてお茶をいうるに紅葉や[illegible]
いうに[illegible]
[illegible]
[illegible]
いろ〳〵様の[illegible]
いかゞ〳〵むかとに

そゝろいと 物みとゝ[illegible]む 渋柿の柿 去来

柿ぬし[illegible]

十二日

牡丹亭話

和七曰人う[illegible]の[illegible]て[illegible]
[illegible]を[illegible]風雅[illegible]
[illegible]

いつ[illegible]
[illegible]
[illegible]

自性なるべし

應くかしいなをやこの内
をのめあるをもむかしをそなるる
詩に姑の字の内を應とをくと記せるは誤
なりしかも推敲の二字なるひ世にあり
其外字の情つきをいふ事一次の条に
その情をとりてそれ次めををいふ事なれ
勝れ劣れをもの　熟柿の義
猶よく集くの所に秋あつさうれ　支考
新に姑に熟柿をあれ物くあれ物あれ熟

もの物をとるくの義柿ハ物をとるくの義なれ
御文元情信をもいふ一次の物景を
をもの情をとりてそれ次をもいふ事なれ
をもの物をもるくの義なれ物をもるくの義
変化の物を物をもるくの義なれ
自然のるを吾をくとかくて為一をもの
をの形をもるるをるとるくるをもの
あれくもあるめをあるくるん筋骨庶貶ハ後一
ほの物をるくし
事をの四　ハのるくを　宜て面白抑ハくいるを

[illegible]れよりそのひとをもりわ義不[illegible]つなぐこれ西
[illegible]方ニこのゐめ物ゐ[illegible]あり[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

いつてらるおそらくあしきハあかんくをそ
それくみやまくるまのれくとこ
西京坊かりこ屋塚みあるらしけそれくく
れ物こうひあるてハ五こるを前ゝよりを
のるを「高野山みこうこうやゆ物のこけこら
けるを「高野山みこうこうやゆ物のこけこら
こうこうこいふ西京坊ゆ屋のをれるを二十
年貫をりこ俳諧をこうこかこうこうあや
物屋のるれ好西をりつくこうこ世せみのを
うこうこるこうこ屋こうこくこ西あを

もたこ歳旦みをせをとふをみこよ伺かこ
こん物屋坊ゆ人ここえりここをこ世
せをみあここれここのるみ形宮ゆこをみ
を人の及ましこ立まりかこ風情とに俳
ここんみ俳諧みつくくるをここるこ
を西ここもこれもこ俳湖面こ
ゆこてこいここれこれこれこここ
ゆこいをこゆはの白こ酒みいを言をこ
人ゆいこんもいを言を物屋の人ゆいここもれ
行こるみ行物を一るこりこここおこ物こ

[illegible]末世といふものを作りて世を四百四十余
[illegible]人[illegible]あり[illegible]ふを閑水勝腦
[illegible]のすみうつる所をうしろ[illegible]
[illegible]世俗のおもきをたのしみこの部のうつる
[illegible]歳[illegible]みをたのみおもきをけ感ずるに人
[illegible]風俗をものつくりそれ仏のあれるものを
[illegible]去年世を共の風雅をかくるこのせを
[illegible]感ずるあ人[illegible]きれるそれ仏をいかるべし
[illegible]人[illegible]なるを
向日門下に俳諧のあるやいなやなるを

しもあるを所[illegible]年のうちにて
[illegible]人一[illegible]それ[illegible]
のみをこそかるるんさしもうるへ人[illegible]
[illegible]吾[illegible]
卯七四さいふ人の俳諧をいふに口[illegible]不易の
[illegible]所[illegible]ありて易[illegible]おものの流行の
[illegible]あやうく[illegible]
[illegible]ものを易[illegible]
八[illegible]行を[illegible]彼を不易を[illegible]
かるしなるを役[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後賦

西[illegible]坊の末孔賦み侍て[illegible]を後賦
や[illegible]
[illegible]の[illegible]後[illegible]
賦み[illegible]ふやや

主来稿

[illegible]

あるをんなの清のあーさまみるといって
ひとりぐらんひさしくまちあるものゝあれあさ
とのゝおもひあるつさてよろこれ富人のゝ袋ひ
ゝさきさけさきもしろわーもうわかるうかゝ
いけるくさきのわしみをもゝぬを知事は
ゝこのなりゝもれ紙にくりさきかのめりされ
弱ゝ人の賦はわーをいるを作りたい
いかつまやとれ欣慕をかゝまうゝ

京江亭

酒病みをちゝあるをれ山をれ　ぬ

小須亭　病後

妙品みるゝをゝ　文家

十七日

一水亭

仲春を詩ゝ家あさく　ゆまう

ゝ月ハ行牧庭の梅ゝ千五月をゝれこの信ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新[illegible]

著書あみたるかからきん　白翁

十七日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一を国二を自分　某表の義　支考

山の湯を望く月ん流行の言葉　ヤヒ

八日

[illegible]

柳川

九日

久留米

十日

[illegible]

十二日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けり宮前草むすもられけあるハ[illegible]稲[illegible]
玄来いとゝみうもふとゝきそえこゝろをつもれ
山行きて
[illegible]

九七日

福岡

このり行こゝ室ゆ以ゝ於堂上ゆ時をさけ、
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]つゝりて屋形(カラトヽリ)所(ココ)の
浦流もこゝろ[illegible]ゝ[illegible]

此むゝ[illegible]
むゝゝゝ[illegible]
へゝゝ[illegible]
[illegible]
もゝこゝ此[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この[illegible]ハ世情の[illegible]
[illegible]身の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

八月 朔日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のあるてなりしひあやあんたうさうき
ぬこうつうしたうるも花かとなせのさとは
あ一ぬるを是勝のかくみあもむきさいい
ぬるをうるうるうくしもうう絶くみなりて
人うあるを物もいぬるみ絶みをありもう

四日

梅園法もうう是勝みあもむくうのうとナ空あと
もあうへしい笑勝のたうあをるうしうかよ
わ風も身みもむうあり時のきうあういたうし

五日

是勝は的京みのうをはうあ雨み浦ま
ぬうあるみゆう拝て人ううもあるぬまし
てあ新しうみをうぬやうるうしう次の朝
を心地つきて行うもうあうさしうきあや
うやもいあうりけうそう人のかくうひ
てのううを絶人うをうるうて又りやあんと

我が水訊うしいひしのめるうちいらめをけを
あるーの四四方方をを絵みるありもうさうや
吾拵さうし りうこの方みけくくあうを
さるのををれをかをれあるを絵をうるるんと云
四のの四えあや行しん一保帆拵うをいるくも
あ行して年のうあるもやうるのしくくををれ
きれをれうをもをうあるうあるうを時を

十一月

うを晴れくくあるるるを絵をを小をの拵庶あ福
家をうはれこの四あ鶯鳴沈水うを西鶯春人

ありてあうやうをを術八面今表うをの
のくををれあるをを拵をいををを四れ
さをりくくあををるを絵月うを
同あるのををさをを絵の毎月小日れを
をれやるあ四をを絵をを拵庶のあを
行あるを流をうを拵庶のあを
をに訳れやるあ行をうをれ書をい中あれうて
世のををけをうをしの行をうをの晩をを

十六日

今百八月れ毎月みるを小栗のを

もしあるうちをもてなしいかにもよそをほんの
枕くらべをされまいくの所をもまうすべき
あるべきものしやくを問も答わ面しまれを
福岡わやうすまを作てそのあれ所なる
あるいはやうにに妙風の松みちしをきん
何ものもしんをの作をやをもつよいはを
御作の紙四をもてあるべきまを物をそれ
をれ次の所ハおのしめをるうをれちハけし
もあいくこのあわをなりかをるるをとをか
ハしをんをまをもをるをを四をを

心をうをてをををうを者ハ紙てハ山みのをう
ををに一条一筆をを作をるあををて竜ををきん
少しして腹をいををまをむ和ををなをかく
あをまをまをををハいをををんををををまをせみあう
耳目ハをうをををうんみをうハ分ををうを
ハををかをみを作紙いをををを御作をを
ををををあるををあるををををあるをて十日
ハをうををみをうをををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを

今宵をもてあそぶとて世の月もてあそぶやと
侍るよ明るをまちかけてさいかりつゝやりられと
ゝをもてあそびもてあそびて月のいろもあらぬ
ものゝあはれ　いつる秋ちれそ
ゝをしきをひかやちん

十六日

星時大雨の人しきりてこの雨れ人もあるとき
はりひつゝけて世間にさゝやきあ
るりゝりけりあるゝ伊勢のやうにくれ
侍人ゝをまちもきるれら新しきあ

十七日

十八日　雨天

函館老人高園の百俵をもとし唐貿易者
諸集りて市をなしたるさまれち物和
見はやるゝ

十一日　晴天

今日もあるもわ一位もかゝはるゝ行幸
をもてなしをもつ　此夕日日の人く
ゝりをもてやゝ

十五日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この[illegible]を[illegible]て小人[illegible]
う世の[illegible]を行[illegible]のみ[illegible]
[illegible]
の[illegible]

[illegible]みの[illegible]

九月朔日

有[illegible]
一[illegible]
の[illegible]

[illegible]家の[illegible]みの[illegible]居あるを一枝と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]やをつくるこのあそびこれらくるまと
なるべし
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

八月

[illegible]

七月

[illegible]

[illegible]

沼船津

[illegible]

壇浦

[illegible]地を[illegible]の古[illegible]物[illegible]て[illegible]人[illegible]も
[illegible]れ[illegible]の[illegible]
[illegible]人[illegible]帯[illegible]冠[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

屏風のもとにしけるを好のくに

このさたをあるあるにあるかあるを文字の間をしけるに

[illegible]

[illegible]

重陽

[illegible]

世情の酒のあるに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろ〳〵紙ちらしをはけ〳〵ん菓の風送あ剃して
これ四紙ありけくくありや哥叶味ゑ風雅の
ゆこゝろあ紙やこの町ゑ風雅のきこゝろあ〳〵
さ〳〵んや

元禄戊寅之秡九月九日

桑日記終

昭和三年